

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会

地域相談支援フォーラム報告

15 : 10～15 : 50

地域がん相談支援フォーラムの経緯、役割

- 2012年度より、**広域地域ベース**での**情報交換と好事例の共有**の場を用意し、**相乗的な効果**を生む活動支援を実施
- **2014年度からは企画公募で募集し、国立がん研究センターが支援**
- 2016年度から、国立がん研究センターの直接的な支援のない、**地域主体開催型**（in沖縄）も開始
- 現在は、全て地域主体開催に移行



H28年度 東北



H26年度 三重



地域相談支援フォーラムの目的や役割

- 好・先進事例の共有、相談支援センターの周知
- ネットワーク構築（相談支援センター間、行政-拠点病院間、拠点病院－医療福祉施設間、県境を越えた広域）
- 活動の活性化・均てん化、質向上の取組促進

- ブロック内の相談支援センター**メンバー**による**実行委員会**構成
- ブロック内**県担当者**の参加
- **県内**および**他県**の好事例共有
- 県をミックスしたグループワーク
- 一般向け公開セミナーを同時開催

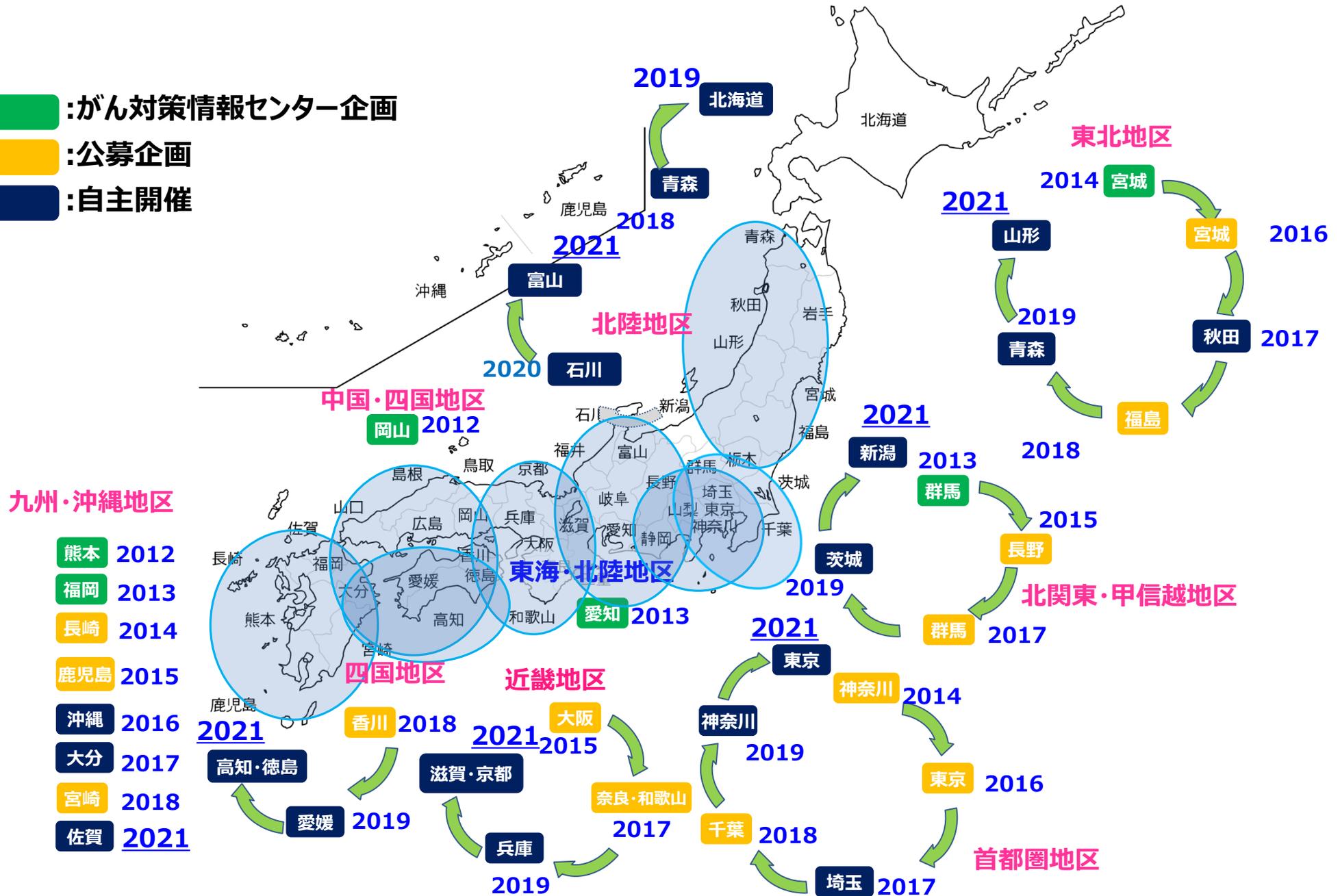


H27年度 鹿児島



地域相談支援フォーラム/ワークショップの企画・運営 H24(2012) 年度～

- :がん対策情報センター企画
- :公募企画
- :自主開催



報告テーマとこれからの流れについて

報告テーマ

- 単県ではなく、ブロックで開催することを活かしてテーマやプログラム内容をどのように決めているのか
- テーマや内容の決定における裁量や体制について

これからの流れ

これからブレイクアウトセッションを開始します。
AグループとBグループどちらかを選択いただき、移動してください

グループ分けとタイムスケジュール

	Aグループ	Bグループ
15 : 15～ 15 : 25	首都圏ブロック 「認知症がん患者の自立とがん相談支援センターの役割を考える」	北関東・甲信越ブロック 「AYA世代がん患者への支援を考える～「未来を担う世代」の今と未来を支えるはじめての一步～」
15 : 25～ 15 : 35	北陸ブロック 「Withコロナ時代のがん相談～今こそ相談支援の力を発揮するために～」	四国ブロック 「みんなどうしてる？ コロナ禍での相談支援」
15 : 35～ 15 : 45	近畿ブロック 「がんゲノム医療における相談支援」	九州ブロック 「最新の情報はがんゲノム、がん相談の原点は…」
15 : 45～ 15 : 50	全体の質疑応答	全体の質疑応答

ブレイクアウトセッション参加方法

参加方法

ブレイクアウトセッションを開始すると、Webex参加画面右上に、ブレイクアウトセッションに関する内容が表示されます。

参加を希望するルームをご自身で選択し、移動してください。

Webex ミーティング情報 メニューバーを表示する 25:48

参加者 (3)

ブレイクアウトセッションは開始されています。どのセッションにも参加できます。

[すべてのブレイクアウトセッションを表示](#)

検索

山田太郎
自分

ブレイクアウトセッションのリスト

ブレイクアウトセッションは開始されています。参加するセッションを選択してください。

> ルームA (0)	参加
> ルームB (0)	参加

ブレイクアウトセッションが開始されると表示されます

①「すべてのブレイクアウトセッションを表示」をクリック

ポップアップで表示されます

②参加したいセッションの「参加」をクリックしてください

ブレイクアウトセッション参加方法

移動方法

ルーム間を移動する場合は下記手順で移動してください。

参加者

参加者 (1)

あなたは **ルームA** のセッションに接続されています。

セッション時間: 02:37

他のブレイクアウトセッションを表示

検索

山田太郎
自分

ブレイクアウトセッションのリスト

ブレイクアウトセッションは開始されています。参加するセッションを選択してください。

> **ルームB (0)** **参加**

参加しているセッションが表示されます

①「他のブレイクアウトセッションを表示」をクリック

ポップアップで表示されます

②移動したいセッションの「参加」をクリックしてください

※参加中のセッションは表示されません

Aグループ

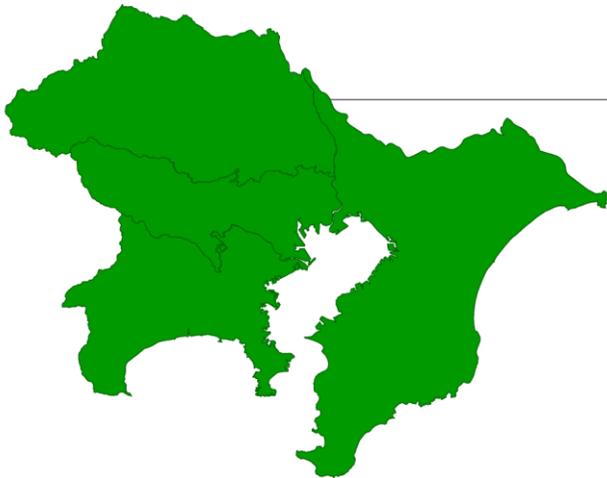
令和4年5月26日

令和3年度

地域相談支援フォーラム

in 東京・神奈川・埼玉・千葉

開催報告



東京都立駒込病院

患者サポートセンター長

歯科口腔外科 山内智博

フォーラム概要

開催日時： 令和3年度11月13日（土）13：30～16：45

開催方法： オンライン（Cisco Webex）

テーマ： 認知症がん患者の自立とがん相談支援センターの役割を考える

対象： 東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県の がん診療連携拠点病院

および都県指定がん診療病院等において、

がん相談支援業務を行う相談員 150名

他県より 若干名

参加者数： 142名

フォーラム概要

講師：

講演①「認知症がん患者の意思決定を支える（医療者の対応力向上の視点から）」

国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科長 小川朝生 氏

講演②「認知症がん患者の意思決定を支える（自立を支える視点から）」

弁護士法人マエストロ 代表弁護士 松井章義 氏

ディスカッション 登壇者

国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科長 小川朝生 氏

弁護士法人マエストロ 代表弁護士 松井章義 氏

第二東京弁護士会高齢者障がい者総合支援センター運営委員

藤田裕弁護士、長尾愛女弁護士、津波朝日弁護士

プログラム：

時間	プログラム内容
13:30～13:45 (15)	オリエンテーション ・ 開会あいさつ
13:45～14:30 (45)	講演① 「認知症がん患者の意思決定を支える（医療者対応力向上の視点から）」
14:30～14:40 (10)	休憩
14:40～15:25 (45)	講演② 「認知症がん患者の意思決定を支える（自立を支える視点から）」
15:25～15:30 (5)	休憩
15:30～16:20 (50)	ディスカッション 代表質問を参考に質疑応答
16:20～16:30 (10)	総括
16:30～16:45 (15)	閉会あいさつ

テーマ決定までの流れ

- テーマ着想に至ったきっかけ
 - ・ アンケート「高齢者のがん」
 - ・ 主催県（東京都）のがん相談員内での意見交換
- テーマ決定までの話し合いのプロセス
 - ① まずは主催県での話し合い
 - 「認知症がん患者さんへの支援、どうしてる？」 「同じように悩んでいる」 「弁護士に相談している」
 - みんな同じように悩んでいるなら、テーマにしよう！
 - 頼りになる先生に講師を頼んでみよう！
 - ② 次に、実行委員会でテーマ・講師を提案・相談
 - 賛同あり、講師の推薦もしていただいた
- テーマ決定におけるブロック内の裁量、決定体制
 - 主催県にて相談し、実行委員会でブロック内に提案、賛同を得て決定

プログラム決定までの流れ

- プログラム決定までの話し合いのプロセス
 - ・ 講演： 講師2名のため、講演2つ
 - ・ ディスカッション： 簡単なアンケートを実施 「弁護士に質問したいこと」
 - 多くの質問が寄せられ、積極的に活かしたい
 - 質疑応答は取り入れたいが、初のオンライン企画でどう実施するかが課題
 - 弁護士の先生と打ち合わせ
 - 「代表質問」というかたちで、登壇者に質問を投げ、ご回答いただくこととした
- プログラム決定におけるブロック内の裁量、決定体制
 - 主催県と講師で相談、ブロック内へ報告

ブロックを意識して考えたこと①

①テーマの設定

ブロック内の各都県で共通した課題を意識した

②ねらいの設定

ブロック内で共通した部分と、地域ごとの違いがある部分、
どちらも学べるよう意識した

ブロックを意識して考えたこと②

ねらい

認知症がん患者の自立を支える目線での**アセスメント**や連携及び**制度活用**を学ぶ

- ・アセスメント → 地域は問わず、共通
- ・制度活用 → 地域により活用できる社会資源が異なる
弁護士に先生に依頼し、各地域の弁護士会へどのような法律相談の体制があるかを
問い合わせさせていただき、講演内で共有していただいた

ブロックフォーラムとして得られた学び①

【ブロック単位での学び】

- ・ 地域が違っていても、同じような悩みと向き合いながら支援していることが共有できた
- ・ 東京都内の一部の病院で活用している「ホームロイヤー」を広く紹介でき、
新たな社会資源として、弁護士との連携を提案
多職種と協力することで、支援の幅を広げられることを周知できた

ブロックフォーラムとして得られた学び①

アンケート結果（抜粋）

- ・ 認知症で意思決定が難しい状況や専門、麻薬導入後の患者の意思決定に対してチーム（多職種）で関わることの大切さ、記録の重要性を学んだ。家族と話をするだけでなく、ベッドサイドに足を運ぶことも改めて痛感した。 後見人などの制度は把握していても、ホームロイヤールの事や病院に出向いて対応してもらっている施設もあることを本日初めて知ることができた。今後に活かしたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 弁護士の方にお話しを聞く機会はないため、貴重な時間を持つことができました。内容は、少し難しかったですが、今後の参考にさせていただければと思います。ありがとうございました。
- ・ ディスカッションで多くの先生の意見が聞けて参考になった。対面になったら参加者同士の話し合いも出来るとよいと思う。
- ・ もっと現実的で突っ込んだ内容の研修であれば尚、よかった。

ブロックフォーラムとして得られた学び②

【オンライン開催からの学び】

- ・初のオンライン開催のため、手探りでの企画・運営だったが、打ち合わせを重ねることで無事に開催することができた
- ・対面よりも主催県が中心の企画・運営になる
- ・定員は多く設定できる
- ・オンライン開催のため、グループワークなしのプログラムだったことにより、東京都は他県の話を知る機会が少なかった

→主催県の業務量過多と他県との情報交換ができないことが課題

ブロックフォーラムとして得られた学び②

アンケート結果

- ・ 今後もオンラインを希望する（遠方、時間の融通、感染対策含め） （23名）
- ・ 参加者とのコミュニケーションの機会が減るのは残念だが減るのは残念だが、
- ・ 事前に資料を確認できること、行き帰りの時間が無くなるため有効に使えることから参加しやすくなる
（3名）
- ・ 貴重な話でしたので、期間限定のオンデマンド配信があってもいいかと思いました
- ・ 資料など準備もしっかりされていてよかった
- ・ 時々講師の方の音声小さくなるので事前に合わせて頂けると助かる
- ・ 視聴の環境も安定しており、代表質問では参加者の事前質問が反映されたディスカッションでとても良かったと思います
- ・ とても作り込まれており、スムーズな運営・進行であったと思いました。
- ・ 最初に音楽付きので流れていた動画が少し早く文字を読むのに追いつけなかったため調整してもよいなと思いました



「令和3年度
北陸地区地域相談支援フォーラムin富山」
開催までの取り組み

富山県立中央病院
がん相談支援センター
敦賀 晶子 中空 真由美

1. 「令和3年度北陸地区地域相談支援フォーラムin富山」概要

テーマ : Withコロナ時代のがん相談
～今こそ相談支援の力を発揮するために～



日時 : 令和3年11月27日 (土) 13時～16時

開催方法 : Zoomによるオンライン開催

対象 : 北陸3県のがん相談支援業務を行う相談員、医療従事者

主催 : 富山県がん診療連携協議会

共催 : 富山県・石川県・福井県・石川県がん診療連携協議会・福井県がん診療連携協議会

後援 : 国立がん研究センターがん対策情報センター

参加人数 : 95名



2. フォーラムまでの流れ

3月

第1回北陸3県打ち合わせ

- ・ 実行員自己紹介
- ・ 今後の進行やテーマ案について



4～5月

富山県実行委員内で会議、メール等でテーマや構成等絞り込み

6～7月

「研修企画コンサルテーション」を活用し講演内容、講師紹介等相談

8月

第2回北陸3県打ち合わせ

- ・ テーマ決定・構成：シンポジウム形式
- ・ プログラム等について検討

「地域相談支援フォーラムオンライン開催にあたり情報・知恵を共有する会」参加

オンライン開催への不安…情報部へ協力依頼

9月

北陸3県メール等でやりとり
シンポジウム発表者や当日役割決定

講師の先生とメールでフォーラム主旨等共有

申し込みフォームや募集要項等作成

国がんへ後援申請や講評の依頼

10月

参加者募集開始

国がんや北陸3県で随時メールやりとり
準備を進めていった

11月

当日の登壇者でリハーサル

第3回北陸3県打ち合わせ
・ 当日流れ等最終確認



情報部と当日に向け通信環境等確認

参加者へ資料等メールで発送

11月27日 フォーラム開催！

3. フォーラムのテーマ決定まで

北陸3県で
話し合い

事前に各県でテーマの案について考えてきてもらい、テーマの候補をあげていった。昨年のアンケート結果も元に検討。
AYA世代、ゲノム医療、高齢がん患者の意思決定支援、アピアランスケアetc.

富山県で
話し合い

テーマを絞り込む内に…
でも結局コロナ禍で今まで通りの相談支援ができなくなった面も多い…。患者会やサロンの中止などがん患者への影響はどうなのだろう？支援が行き届いているのか？他の県の現状は？
コロナ禍でのがん相談について話は盛り上がっていった…
今年度はコロナ禍でのがん相談をテーマにフォーラムを開催してはどうか？

北陸3県へ
メール

テーマ選定の経緯について：コロナ禍で患者は友人に会う機会を失い、遠方の家族にも会えない時代だからこそ、がん相談の必要性を強く感じる。コロナ禍でのがん相談の現状、今後に向けた取り組みについて北陸3県で意見交換を行い今後活かせるフォーラムを開催したいという考えに至った。

北陸3県で
話し合い

メールで事前にお知らせしたテーマ選定経緯に賛同頂き、テーマ決定！
「Withコロナ時代のがん相談～今こそ相談支援の力を発揮するために～」
となりました。

4. プログラム決定まで



北陸3県でコロナ禍でのがん相談の現状、今後に向けた取り組みについて意見交換したい。



参加者が多いとグループワークは難しい。でもオンラインのメリットを活かして人数制限はしたくない。シンポジウムなら参加者からも意見をもらえるのでは？



前半はシンポジウムにしてコロナ禍でのがん相談について意見交換。後半はコロナ禍での相談支援に活かせるような講演にしてはどうか？

令和3年度 北陸地区地域相談支援フォーラムin富山
テーマ：Withコロナ時代のがん相談～今こそ相談支援の力を発揮するために～

総合司会：敦賀晶子（富山県立中央病院）

13:00 開会挨拶：柴田和彦（厚生連高岡病院 副院長）

13:10 シンポジウム
「コロナ禍となった昨年からのがん相談の現状、今後に向けた取り組み」

座長： 前田誉子（厚生連高岡病院）

シンポジスト： 中空真由美（富山県立中央病院）
坂倉喜代美（金沢医療センター）
横山友美（福井赤十字病院）

14:25 休憩

14:35 講演 「今だからこそ。つなぎ、ささえあう、がん相談を」
講師：橘 直子（九州大学人間環境学府人間共生システム専攻 医療ソーシャルワーカー）

15:35 質疑応答

15:45 講評：櫻井雅代（国立がん研究センター がん対策研究所 がん情報提供部）

15:55 閉会挨拶：宗本義則（福井県済生会病院 副院長）

16:00

5. 北陸ブロック内での準備の進め方



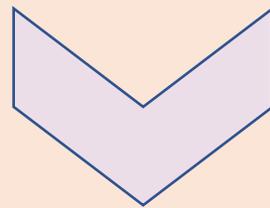
- ★打ち合わせは全てZoomによるオンライン会議とした。（富山県内も）
- ★北陸3県での打ち合わせは4回施行。富山県実行委員である程度事前に検討しその内容をメールで伝えるようにした。そして北陸3県での打ち合わせで意見をもらいながら決定していった。
- ★主催県の代表は富山県立中央病院が担った。主に各県の代表者とメールや電話でやりとりした。依頼状など事務手続きは部会長病院の厚生連高岡病院が行った。
- ★当院情報部にも協力を得てオンライン上でのシンポジウムの方法等も相談した。
- ★準備を進めるにあたり困った時は、国立がん研究センターの担当の方にその都度メールで相談し助けて頂いた。



6. フォーラム開催に向けブロックとして意識したこと

昨年は北陸地区で初めてフォーラムを開催し、北陸3県のがん相談支援を行う相談員がお互いの状況を知り、連携に向けた情報共有の機会となった。

今回は北陸地区がん相談員として一歩進んで学びをより深めたい。



コロナ禍でのがん相談の現状を共有し、患者・家族が孤立しがちな状況だからこそがん相談の体制や相談員のスキルを向上し、これからのがん患者の支援に活かすことを目指した。

7. 北陸ブロックフォーラムからの学び

アンケートより

- ・他県のコロナ禍でのがん相談の現状を知り事ができた。
- ・感染予防対策に留意しながら相談支援を続ける必要性を改めて実感した。
- ・コロナ禍におけるがん相談の悩みはどの施設も共通することも多く励みとなった。
- ・コロナ禍だからこそ創意工夫し丁寧に対応することを学ぶ機会となった。
- ・オンラインは高齢者にとってハードルは高いが続けていくことが大切。
- ・LINEでのがん相談やケーブルテレビの広報活動など参考になった。
- ・サロン利用者へ手紙を送ったという活動が印象に残った。
- ・橘先生の講演より
 - ・一期一会を大切にしたいと感じた。
 - ・レジリエンスという言葉を知り勉強になった。
 - ・相談員の自分らしさ、メンタルヘルスの大切さ。 etc.

★北陸3県、コロナ禍での相談支援における創意工夫点を知りよい刺激となった。

★コロナ禍での新しい相談支援の様式を取り入れながら、今後もがん相談質向上に向け励みとなった。

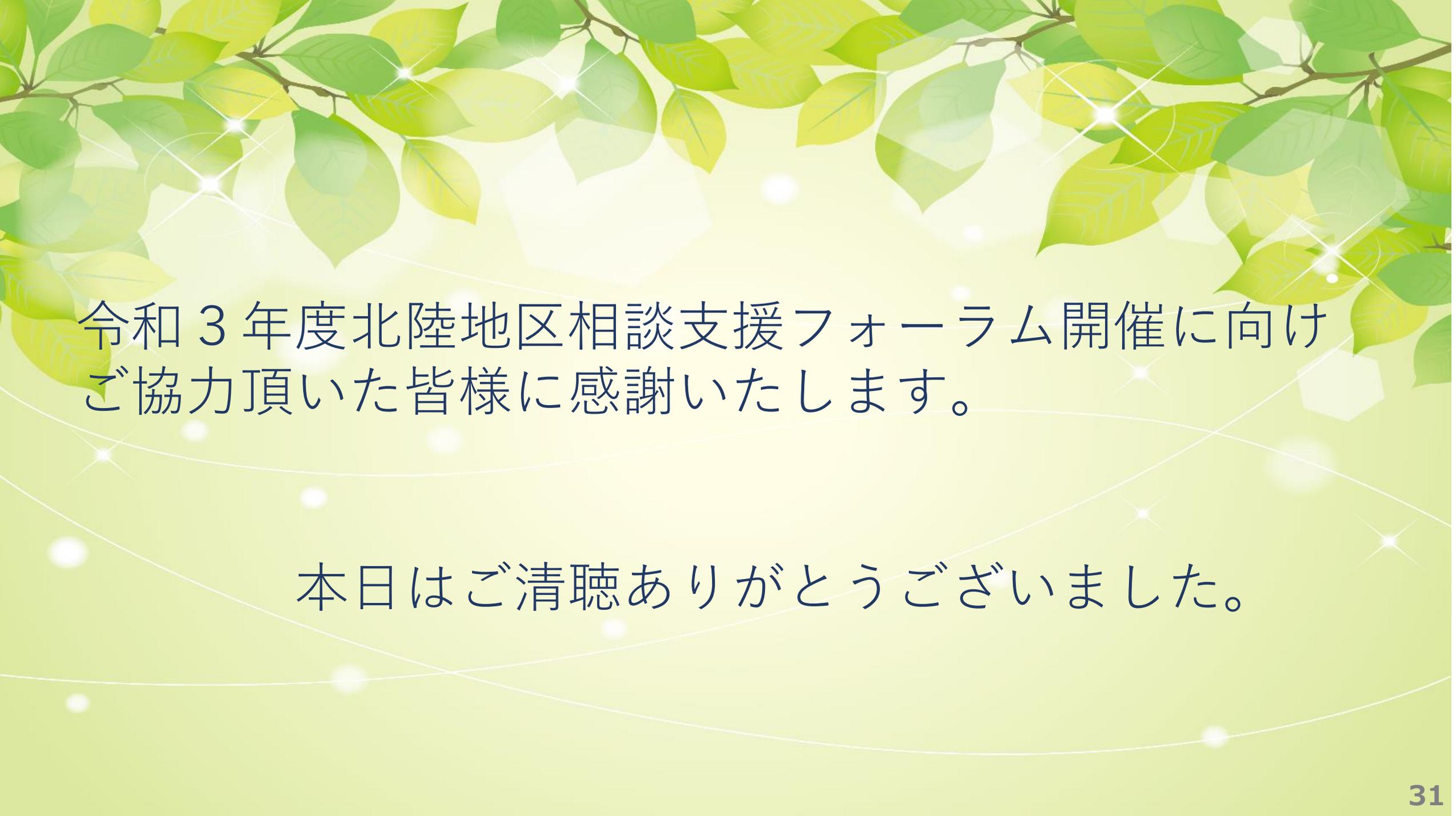
★明日からのがん相談支援に活かすことのできるフォーラムとなった。

北陸3県、去年は顔の見えるフォーラム、今年は心の見えるフォーラムへ。

(講評のお言葉より)

8. 「オンライン」というハードルを乗り越えて





令和3年度北陸地区相談支援フォーラム開催に向け
ご協力頂いた皆様に感謝いたします。

本日はご清聴ありがとうございました。

令和3年度

地域相談支援フォーラム in 近畿 開催報告

「がんゲノム医療における相談支援」2021.11.28

[滋賀県立総合病院]

岡村 理

[京都市立病院]

坂東 千鶴佳、川勝 伸也

[京都大学医学部附属病院]

出雲路 祥子

[京都府立医科大学附属病院]

里見 志穂

フォーラム概要

令和3年度 地域相談支援フォーラム

相談が
療がん
支にゲ
援おノ
けるム

in近畿

日時

2021年11月28日（日）

13:00～16:45（12:30受付開始）

参加募集人数

150人

対象

近畿地区6府県のがん診療連携拠点病院および府県認定がん診療病院、
専門的がん診療機関などにおいて、がん相談支援業務を行う相談員
※国立がん研究センター認定がん専門相談員Ⅲ群該当研修

オンライン開催
(Zoom)
参加費無料

一人一台(PC等)の環境から
ご受講ください

プログラム

講演①「がんゲノム医療の現状と課題」

京都府立医科大学附属病院 がんゲノム医療センター センター長 高山 浩一先生

講演②「がんゲノム医療を支える～多職種連携と協働～」

京都府立医科大学附属病院 遺伝子診療部 遺伝相談室 認定遺伝カウンセラー

村島 京子先生

6府県からの報告「がんゲノム医療に関する取り組み」

ディスカッション

大阪国際がんセンター 池山晴人氏

147名参加
WEB形式

会議開催日程

日時	会議名	方法
2020年3月19日	第1回 京都府・滋賀県打ち合わせ	集合 (@京都市立病院)
2020年9月30日	第1回 近畿6府県打ち合わせ	WEB
2021年4月23日	第2回 京都府・滋賀県打ち合わせ	WEB
2021年7月14日	第3回 京都府・滋賀県打ち合わせ	WEB
2021年8月4日	第4回 京都府・滋賀県打ち合わせ	WEB
2021年9月6日	第2回 近畿6府県打ち合わせ	WEB
2021年9月6日	第5回 京都府・滋賀県打ち合わせ	WEB
2021年11月2日	第6回 京都府・滋賀県打ち合わせ	WEB
2021年11月22日	第7回 京都府・滋賀県打ち合わせ	WEB
2021年11月28日	【当日】地域相談支援フォーラムin近畿	WEB
2021年12月10日	近畿6府県振り返りの会	WEB

近畿6府県のニーズを確認

兵庫

- ・就労支援
- ・**がんゲノム医療**に関する相談支援
- ・AYA世代を地域で支える取り組み

大阪

- ・AYA世代への相談支援
- ・**がんゲノム医療**に関する相談支援

和歌山

- ・**がんゲノム医療**相談
- ・小児がん拠点病院との連携
- ・自殺対策の取り組み

京都

- ・**がんゲノム医療**についての相談支援
- ・がん患者を地域で支える

滋賀

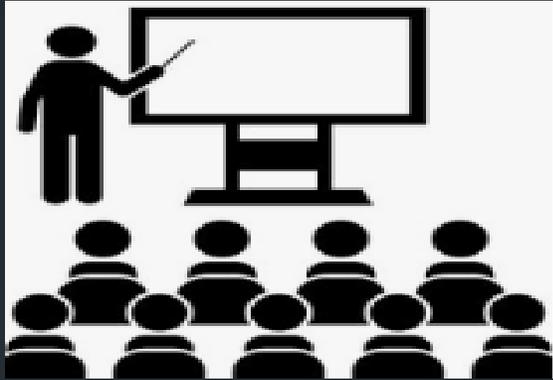
- ・新型コロナウイルスの相談
- ・多職種協働
- ・相談員同士のピアサポート
- ・就労支援
- ・AYA世代支援
- ・**がんゲノム医療**相談

奈良

- ・医療的な相談に対する院内の対応方法(医師との連携等)
- ・**がんゲノム医療**相談

がんゲノム医療相談
(意思決定支援、ACP含む)

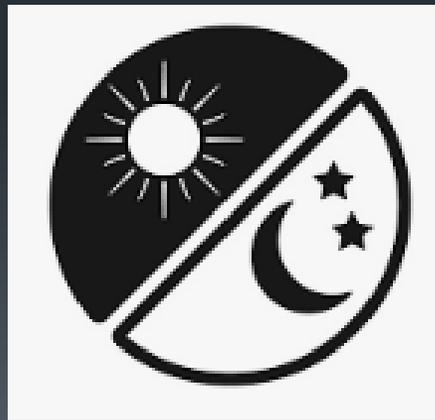
研修方法



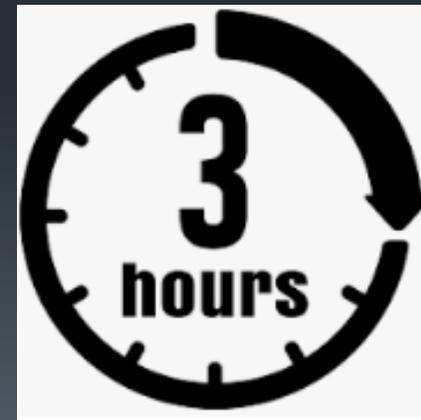
集合研修



WEB研修



1日



3時間

学習目標(がんゲノム医療の～)

講演

1

- 基礎知識を得る

2

- 相談支援に関するアセスメントの視点を知る

3

- 地域の状況を理解する点を知る

4

- 相談支援の在り方について学ぶ

5

- がん専門相談員の役割について学ぶ

6 府県からの報告
ディスカッション

6府県の報告内容を統一

- ゲノム医療機関体制（中核病院・拠点病院・連携病院）
- ゲノムに関する院内の相談窓口（がん相談・他部署）
- 院内での連携体制
- がん相談支援センターでのゲノムに関する相談件数
- がん相談支援センターでの主な相談内容
- がん相談支援センターでの対応状況
- 取り組んでいること
- 困っていること、課題

令和3年度
地域相談支援フォーラムin近畿

「がんゲノム医療における相談支援」

〇〇県（府）
〈発表者〉

各府県のがんゲノム医療提供体制

（各府県におけるがんゲノム医療の提供体制
についてご記入ください）

- 〔例〕 ・がんゲノム医療中核拠点病院
〇〇病院
（中核拠点病院が無い府県は連携医療機関を記載）
・がんゲノム医療拠点病院
〇〇病院、〇〇病院
・がんゲノム医療連携病院
〇〇病院、〇〇病院、〇〇病院

がんゲノム医療に関する
相談窓口

（各府県の医療機関における、がんゲノム医療に関する相談窓口についてご記入ください）

相談窓口が

①ある

⇒具体的にどこですか

- ・がん相談支援センター
- ・がんゲノム医療センター（がんゲノム関連相談窓口）
- ・地域連携室
- ・他部署 その他（ ）
- ・特になし

②ない

⇒相談があった場合にどのように対応していますか

- ・〇〇病院（ゲノム拠点病院）の相談支援センターにつなぐ
- ・その他（ ）
- ・特になし

③その他

がん相談支援センターにおける相談支援

①相談件数

（がんゲノム医療
についてご記入く

がん相談支援センターにおける相談支援
②相談内容

（ゲノム診療病院、
相談件数を確認し

（がんゲノム医療に関する主な相談内容
についてご記入

がん相談支援センターにおける相談支援
③対応状況

〔例〕

- ・がんゲノム医療と
- ・がんゲノム医療を
- ・がん遺伝子パネル
- ・費用について

（がん相談支援センターにおける対応状況
についてご記入ください）

〔例〕

- ・概要の説明を行う
- ・窓口の案内を行う
- ・専門部署に引き継ぐ
- ・事前説明を行う
- ・医師の説明に同席する
- ・検査後のフォロー

がんゲノム医療に関する
取り組み

（各府県、医療機関、がん相談支援セ
で取り組まれている、がんゲノム医
る取り組みがありましたらご記入く

〔例〕

- ・ACPの取り組み
- ・緩和ケアにつながる支援

がんゲノム医療に関する
困りごと・今後の課題

（がんゲノム医療に関して、困りごとや今後
の課題がありましたらご記入ください）

〔例〕

- ・院内の体制づくり
- ・病院間での連携

近畿ブロック全体での研修会



府県をまたいで連携

学び ～アンケート結果から～

【基礎知識・地域の状況】

- ✓ 最新の情報や、曖昧であった部分が理解できた
- ✓ 多くの施設がよく似た不安や課題を抱えていることが分かり、自身の地域の現状を知ることができた
- ✓ 自施設の課題が明確となり、院内での連携推進の参考にしたい
- ✓ 検査から診断までに時間がかかる理由を患者に説明できる
- ✓ 知りたい情報と知りたくない情報を提示された方に対するの対応についての課題に気づけた
- ✓ 相談先などが明確になり安心できた、如何に繋ぐことが重要かを確認できた

【相談支援の在り方、相談員の役割、アセスメントの視点】

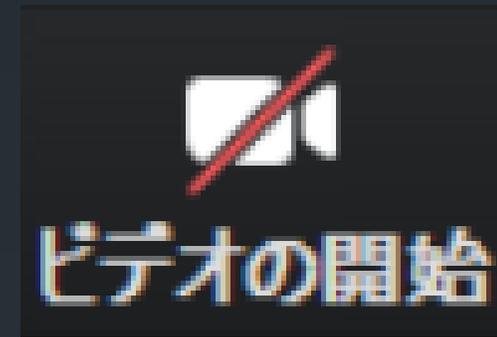
- ✓ ゲノムが成長過程であり、医療者、患者双方のリテラシーを育てる必要性がある
- ✓ 相談支援員自身の姿勢や心構えもお手本にしたい
- ✓ 自施設の課題が明確になり、院内での連携推進の参考にしたい
- ✓ 家人や当事者に配慮して対応したい
- ✓ 非常に意思決定支援が難しい分野だと思う
- ✓ がん相談支援センターではゲノムの問題も相談できるという周知が必要
- ✓ 緩和ケアチームとの結びつきなど、業務に取り入れていきたい
- ✓ 一つの病院だけでは限界がある為、他病院・多職種で支援していく必要がある
- ✓ 遺伝カウンセリングがない病院でどのように対応していくことが課題

事前の通信テスト(1週間前・当日開始直前)

- ① 当日と同じ場所(通信環境)
- ② 当日と同じパソコン
- ③ 当日と同じ発表データ
- ④ ZOOM 画面共有の操作確認

通信トラブル予防

基調講演視聴時は受講者の画面OFF



受講確認

	C	D	E
	参加時刻	退出時刻	所要時間
	2021/11/28 10:10	2021/11/28 17:03	414
	2021/11/28 10:31	2021/11/28 17:03	392
	2021/11/28 10:31	2021/11/28 17:01	391
	2021/11/28 11:01	2021/11/28 16:54	354
	2021/11/28 11:08	2021/11/28 17:02	354
	2021/11/28 11:34	2021/11/28 17:02	329
	2021/11/28 12:03	2021/11/28 17:02	300
	2021/11/28 12:03	2021/11/28 17:02	300
		2021/11/28 16:57	298
		2021/11/28 17:02	296
		2021/11/28 16:58	294
	2021/11/28 12:09	2021/11/28 17:02	293
	2021/11/28 12:03	2021/11/28 16:54	292
	2021/11/28 12:1		291
	2021/11/28 12:0		288
	2021/11/28 12:17	2021/11/28 17:02	285
	2021/11/28 12:17	2021/11/28 16:56	279
	2021/11/28 12:31	2021/11/28 16:54	265
	2021/11/28 12:30	2021/11/28 16:54	265
	2021/11/28 12:30	2021/11/28 16:54	265
	2021/11/28 12:30	2021/11/28 16:55	265
	2021/11/28 12:32	2021/11/28 16:57	265
	2021/11/28 12:31	2021/11/28 16:54	264
	2021/11/28 12:31	2021/11/28 16:54	264
	2021/11/28 12:31	2021/11/28 16:54	264
	2021/11/28 12:34	2021/11/28 16:57	264
	2021/11/28 12:31	2021/11/28 16:54	264
	2021/11/28 12:32	2021/11/28 16:54	263
	2021/11/28 12:32	2021/11/28 16:54	263
	2021/11/28 12:32	2021/11/28 16:54	263
	2021/11/28 12:32	2021/11/28 16:55	263
	2021/11/28 12:33	2021/11/28 16:54	262

受講者名

参加時刻

退出時刻

所要時間

ZOOMのログ記録で確認した

その他の配慮したこと

発表者の通信トラブル時の直通電話対応者を配置

受講者の通信トラブル時の電話対応者を配置

開催本部の院内放送が音声に入らないように配慮

近畿6府県振り返りの会

【次回開催に向けて】

- 当初集合研修で企画していたものをWEB研修に変更したことで、予定時間通りに進まなかった。開催形式を決定してから企画を進めた方が良い。
- すでに会場を予約しており、キャンセル料がかかった。
- 50分間の講演時間は長く感じる受講者がいた。1講演30～40分程度が良いか。
- ディスカッションの時間をもう少し予定しておけば良かった。
- ディスカッションを「チャットで発言」としていたが、「ミュートを外して発言」にしても良かったか。
- WEB研修経験不足のため、グループワークができず、相談支援の実践に落とし込めるようなプログラムができなかった。
- WEB研修でのグループワークは、「ブレイクアウトルーム」の操作が必要。不慣れな場合は、主会場側の負担が大きい。
- ファシリテーターが必要な場合、6府県の実行委員中心に対応することは可能である。
- 150名程度の受講証書の作成・発送について、事務処理に時間を要した。
- 京都府と滋賀県の実行委員の役割を最初から決めておくことにより、混乱なく企画・運営することができた。

Bグループ

2021年度
北関東甲信越ブロック
地域相談支援フォーラム
in新潟
報告

令和4年5月26日
新潟県立がんセンター新潟病院
患者サポートセンター
櫻井 圭美

フォーラム概要

- 2021年11月21日（土） 13:00～17:00

- 参加者 125名

（茨城9名、群馬10名、栃木27名、長野17名、新潟46名、山梨13名、東京3名）

- テーマ

「AYA世代がん患者への支援を考える

～「未来を担う世代」の今と未来を支える初めの一歩～」

- 研修目的

AYA世代がん患者が直面しやすい困りごとに対して組織として 取り組んでいることや、課題としてとらえていること、また、地域と共に取り組んでいることを知り、自部署組織に活かす機会とする。

プログラム内容

開会の挨拶

フォーラム第1部 各県シンポジストの発表

基調講演

「相談員としてAYA世代がん患者に必要な支援とネットワークの活用」
聖路加国際病院 AYAサバイバーシップセンター 橋本久美子先生

フォーラム第2部

講師と各県シンポジストによるディスカッション
テーマ

『AYA世代がん患者の相談を受ける体制の課題と取り組み』

引き継ぎ式

閉会の挨拶

テーマ・プログラム決定までの流れ①

主催病院として考えたこと

- 北関東甲信越ブロックでは患者の意思決定支援のテーマが2年続いた。別なテーマを設けることで参加者の関心を引くことができるのではないか
- 主催病院では、このころAYA世代をテーマにした研修会を開催しており、研修参加者の反応が良いことから、「AYA世代がん患者の相談支援」をテーマとすることに決定した。
- テーマは主催病院で決定したが、フォーラムの内容（方向性とサブテーマ）は新潟県の実行企画委員と協議することにした。

テーマ・プログラム決定までの流れ②

テーマの選定について（新潟県内）

AYA世代がん患者について取り上げたい。

第3次がん推進対策基本法にも取り上げられているが、対応も少なく困難と感じる相談である。必要性を感じていても組織として考えているところはどれだけあるだろうか。妊孕性に関する制度改定の情報もあり、AYA世代に関する注目度も高く、旬な話題である。

【提案】

①AYA世代がん患者の支援を考える

②AYA世代がん患者の相談支援とネットワークを考える

拠点病院内で話し合った結果
相談対応したことがないという相談員（病院）が続出。①案は個人の研修で学びのチャンスがある。しかし活用方法が分からない。それよりも「どのような仕組みを使って相談対応していくか」のほうが学びがあるのではないか。テーマの表現は1案、フォーラムの内容は2案という結果になった

テーマ・プログラム決定までの流れ③ プログラム構成について（新潟県内）

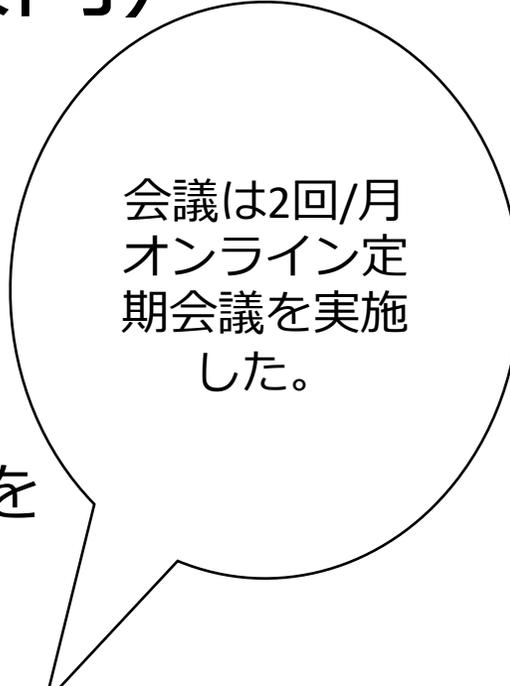
- オンラインを使ったフォーラムを開催する
- 開催時間 半日に短縮（13時～17時）
- 開催方法について検討（下記3つの意見が集まる）
 - ①聴講のみ
 - ②シンポジストがディスカッションする
 - ③グループワークを実施する

⇒①②③から選択。その理由、具体的な進め方、時間配分を提案する。



②の選択が多数。集まった意見は資料にまとめ各委員に配布。

慣れないオンラインで③グループワークをやることは自己紹介で終わってしまいかもしれない。それよりも事前に質問を集めて講師の先生にも参加していただきディスカッションが盛り上がったほうがおもしろい。



会議は2回/月
オンライン定期
会議を実施
した。

テーマ・プログラム決定までの流れ④

ディスカッションについて（新潟県内）

フォーラムでは、AYA世代患者の相談を相談員が一個人として悩むのではなく相談支援センターが組織として取り組めるようなヒントを、一つでも持ち帰ってほしい。組織体制を整備することは、患者が相談しやすく、相談員が相談対応しやすい環境を整えることになり、自部署の課題も明確になりやすい。

ディスカッションテーマ

「相談を受ける体制の課題と取り組み」

* そもそも患者さん来ない。 * なぜ来ないの？ * 一人で悩みを抱えているのかな？

方向性をしぼるために、フォーラム参加者もシンポジストにもAYA世代に関するアンケートをとったほうが課題をしぼりやすい。講師の先生への質問も事前に集めよう。

★事前アンケートからディスカッションの方向性を主催病院がまとめ、決定事項として同意を得ていった。

ブロックを意識して考えたこと①

- 各県発表では以下の2点について発表をお願いし、その内容を踏まえディスカッションで自部署組織に活かせることが見出せるのではない

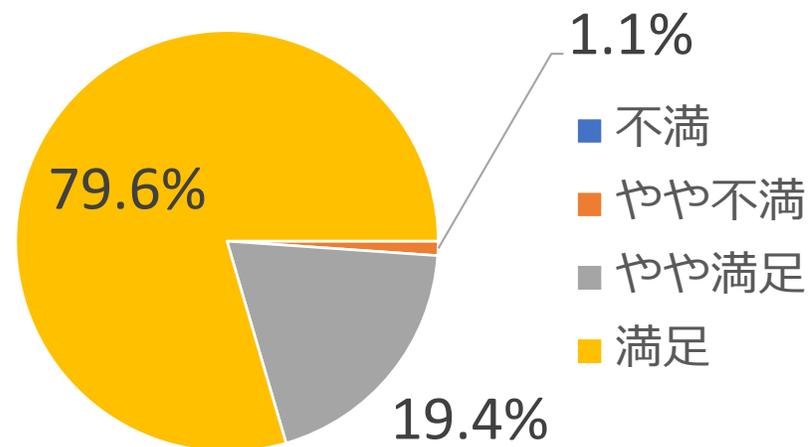
《発表者（シンポジスト）へお願いをしたこと》

- ①どのような事例でも構わないので成功事例の発表をお願いしたい。特に妊孕性や小さい子供を持つYA世代、または15才以降のA世代患者との関わりなど。
- ②成功事例がなかった場合、印象に残る事例から、どんな整備が必要だと思ったか、特に院内のどこに理解してもらう必要があるのか、相談支援センターが取り組む課題が何かと考えたか、などの発表をお願いしたい。

フォーラム終了後 アンケート結果

1) 総合評価

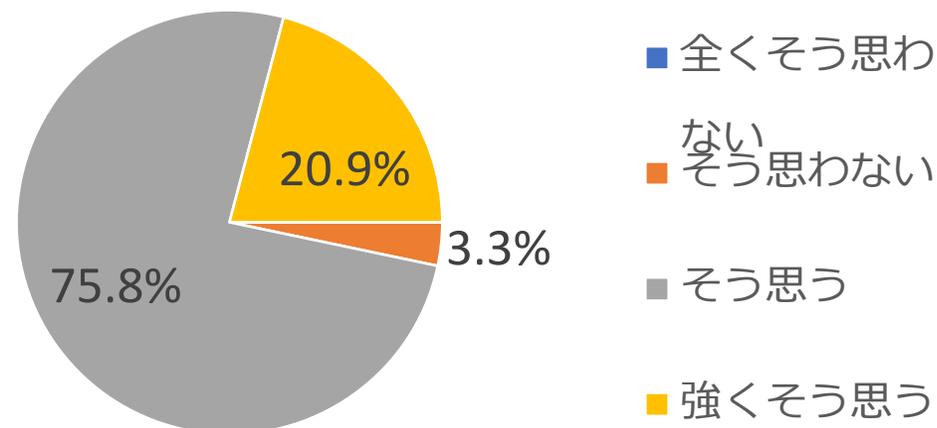
(93件の回答)



2) ディスカッションを聞いて

自部署の課題は明確になりましたか？

(91件の回答)



アンケート自由記載

各シンポジストの皆さんのお話から、当院ではまだまだ個で相談に乗っていると感じました。院内の体制や、各診療科、各部署への周知や、AYA世代に必要な支援など今後勉強会等開けると良いと感じました。

各県の取り組みや講演が具体的で参考になる内容であり、実のある研修でした。

様々な切り口からAYA世代への支援を考えることができました。活用できそうなツールの情報も得ることができ、明日からの相談に役立てたいと思います。

フォーラムの目的

AYA世代がん患者の相談を相談者個人の対応として考えるのではなく、組織として考え、自部署組織に活かす機会にする。

フォーラムの目的は達成！

ご清聴ありがとうございました

令和3年度 地域相談支援フォーラムin四国 開催報告



発表者：
徳島大学病院 患者支援センター
MSW福田直也

フォーラム概要

- テーマ：令和3年度地域相談支援フォーラム in 四国
「みんなどうしてる？コロナ禍での相談支援」
- 主催：高知がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会
徳島県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会
- 後援：愛媛県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会
香川県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会
国立がん研究センター
- 開催日：令和4(2022)年1月22日（土）13：00～17：20（12:30待合室開放）
- 対象：四国ブロックのがん診療連携拠点病院および県認定がん診療病院、専門的がん診療機関などにおいて、がん相談支援業務を行う相談員。四国ブロック以外の地域でがん相談支援業務に従事している方からのお申し込みも受け付け。
- 開催形態：オンライン開催、WEB会議システム（ZOOM）を使用。
- 募集人数：40名（人数調整のため、施設単位で申し込み。）
- 申込方法：がん情報サービスの申し込みフォームから

3年ぶりに再開します！

「認定がん専門相談員」認定事業における研修

地域相談支援フォーラムin四国

～みんなどうしてる？コロナ禍での相談支援～

新型コロナウイルスの感染拡大による相談支援の変化や取り組み事例の共有

<p>01</p> <p>各県の取り組み発表</p> <p>コロナのために2019年愛媛開催、2020年高知開催が流れ、3年ぶりに四国の皆様とお会えます。この間に変わったこと、特にコロナ下でどのように相談支援やサロン運営に取り組んでこられたのか、お互いの経験を共有しましょう。</p>	<p>02</p> <p>全国の取り組みから学ぶ</p> <p>皆さんおなじみの国立がん研究センターの高山智子先生をお招きし、新型コロナウイルスの流行拡大により相談支援の提供方法や患者さん・ご家族にどのような変化が起きたか、全国の状況や取り組み、そしてアフターコロナでのがん相談支援センターの課題等についてお話し頂きます。</p>	<p>03</p> <p>岡山での取り組みから学ぶ</p> <p>四国のお隣、岡山大学病院 総合患者支援センターの石橋京子先生にもコロナ下での取り組みについてお話し頂きます。オンライン面談、カンファレンスなど、実際に取り組んでこられたことを通じて、現状や課題、今後のことについてお話し頂きます。</p>
---	--	--

2022年1月22(土) 13:00-17:20

開催方法：Web (zoom)
主催：徳島県がん診療連携協議会 高知がん診療連携協議会
後援：国立がん研究センター 愛媛県がん診療連携協議会 香川県がん診療連携協議会

受講対象：がん相談に従事する専門職
※四国以外からの受講にも応じる予定ですが人数制限を行います。

募集人数：40名（申し込み多数の場合は主催者にて調整をさせていただきます）
※フォーラム当日はグループワークの準備上、おひとり1台ずつのPCでご参加ください。

申込方法：以下のURLもしくはQRコードにて、施設ごとにとりまとめて申し込みください。

開催概要
https://ganjoho.jp/med_pro/vod/training_tdfk/forum/chugoku_shikoku/shikoku_20220122.html
申込フォーム
<https://contact.ganjoho.jp/form/pub/ganjoho/shikoku>




本フォーラムに関する問い合わせ先
地域相談支援フォーラム in 四国 事務局（徳島大学病院 がん相談支援センター）
担当：福田 E-mail：fukuda.naoya@tokushima-u.ac.jp

高知県さんに作成して
いただきました。

フォーラム概要

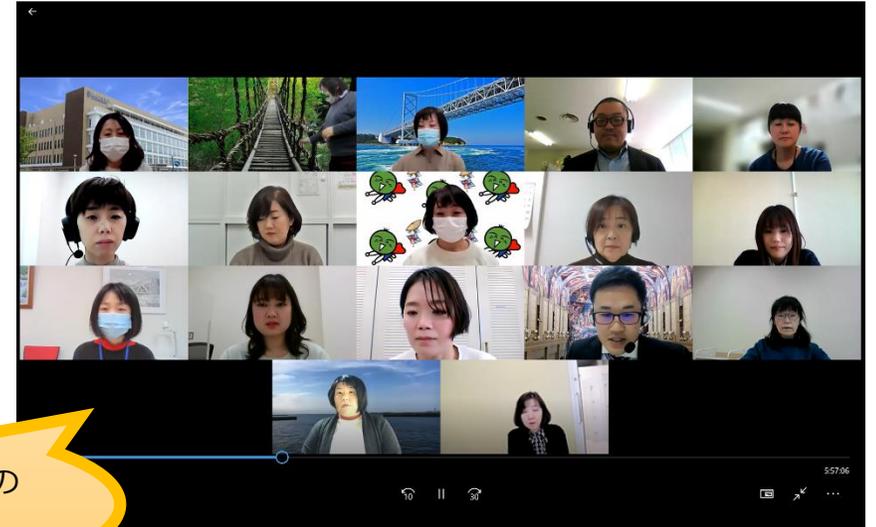
・プログラム

13:00～13:15	開会
13:15～14:15	各県の取り組み発表（徳島・香川・高知・愛媛） 『コロナ禍における相談支援の現状と新たな取り組み』
14:15～14:25	休憩
14:25～15:35	講義 ①国立がん研究センター 高山智子先生 ・新型コロナの流行拡大により相談支援の提供方法や患者家族にどのような変化が起きたか、全国的な傾向について。 ・今後(アフターコロナ)の展望や課題 ②岡山大学病院 石橋京子先生 ・オンライン面談、カンファレンス、その他相談支援提供の現状、問題点、具体的な取り組みなど
15:35～15:45	休憩
15:45～16:50	グループワーク ①現在の自施設における相談支援の状況や課題 (講義の内容を踏まえて) ②今後、相談支援において取り組みたいこと
16:50～17:10	全体共有
17:10～17:20	閉会式

※前後30分で実行委員ファシリテーターミーティング・振り返りを実施。

フォーラム概要

- 実行委員：四国4県、計11名
- 当日運営メンバー：
 - 事務局 7名(徳島大学病院4名、高知大学医学部附属病院2名、香川大学医学部附属病院1名)
 - ファシリテーター 8名(四国4県、各県2名ずつ選出)
 - オブザーバー 9名(NCC、各県協議会長・部会長等の医師、各県の行政担当者)
- 申込者数：49名(ブロック外：大阪府、奈良県、鳥取県、愛知県)
- 参加者数：49名(うち修了者：48名)
 - GW 6~7名+オブザーバー1名 ×8グループ
- 評価方法：アンケート(webアンケートフォームを利用)
 - 回答者：41名(回収率83.7%)



当日ミーティングの様子

テーマ・プログラム決定までの流れ①

テーマの候補：

- ① AYA世代の支援、妊孕性の支援
- ② アピアランスケア
- ③ 新型コロナの感染拡大による相談支援等への影響
- ④ ゲノム医療

➤ テーマ着想に至ったきっかけ

県内実務者会にて相談し、テーマの候補をPick up。過去のフォーラムで取り扱っていないテーマで、トピックス的なテーマを検討。

済 情報支援

済 就労支援 ※開催中止に伴い次回へ持ち越し

テーマ・プログラム決定までの流れ②

➤ テーマ決定やプログラム決定までの話し合いのプロセス

2021.7.6に実行委員でwebミーティングを行い、メーリングリストも活用して意見を集約しながらテーマを絞り込んだ。

相談支援においても、様々な変化を求められる要因となった「コロナ禍での相談支援」をテーマに選定。

プログラムについて、四国ブロックのフォーラムは毎回“**相談員同士の交流・横の繋がり**”を大切にしているため、GWをプログラムに盛り込んだ。

テーマ決定のタイミングがCOVID-19ワクチン接種が軌道に乗り始めたタイミングだったため、今後の動向が予測しづらい状況であったが、アフターコロナにも課題は生じると見込んでテーマを決定した。

オミクロン株の流行により、結果的にフォーラム開催時期ではタイムリーな内容となった。

➤ テーマやプログラム決定におけるブロック内の裁量、決定体制

テーマ候補やプログラムの素案については主催県が作成し、ブロック内の実務者ミーティングやMLを活用した議論を行い、修正等を行いながらコンセンサスを得た。

➤ 講師依頼においては、NCCの『地域開催の研修企画コンサルテーション』を利用。

ブロックを意識して考えたこと①

- 四国ブロックでは、過去にも4県で協働しながら研修会などを開催してきた歴史があり、H30年度に四国ブロックのフォーラムがスタートする前から、“相談員同士の交流・横の繋がり”を大切にする文化が定着していた。
- H31年度以降、コロナ禍となりフォーラムの中止が続いた。
 - ① 四国ブロックでのフォーラム開催を再開したい。
 - ② 相談員間の繋がりを再認識できるようなプログラムにしたい。

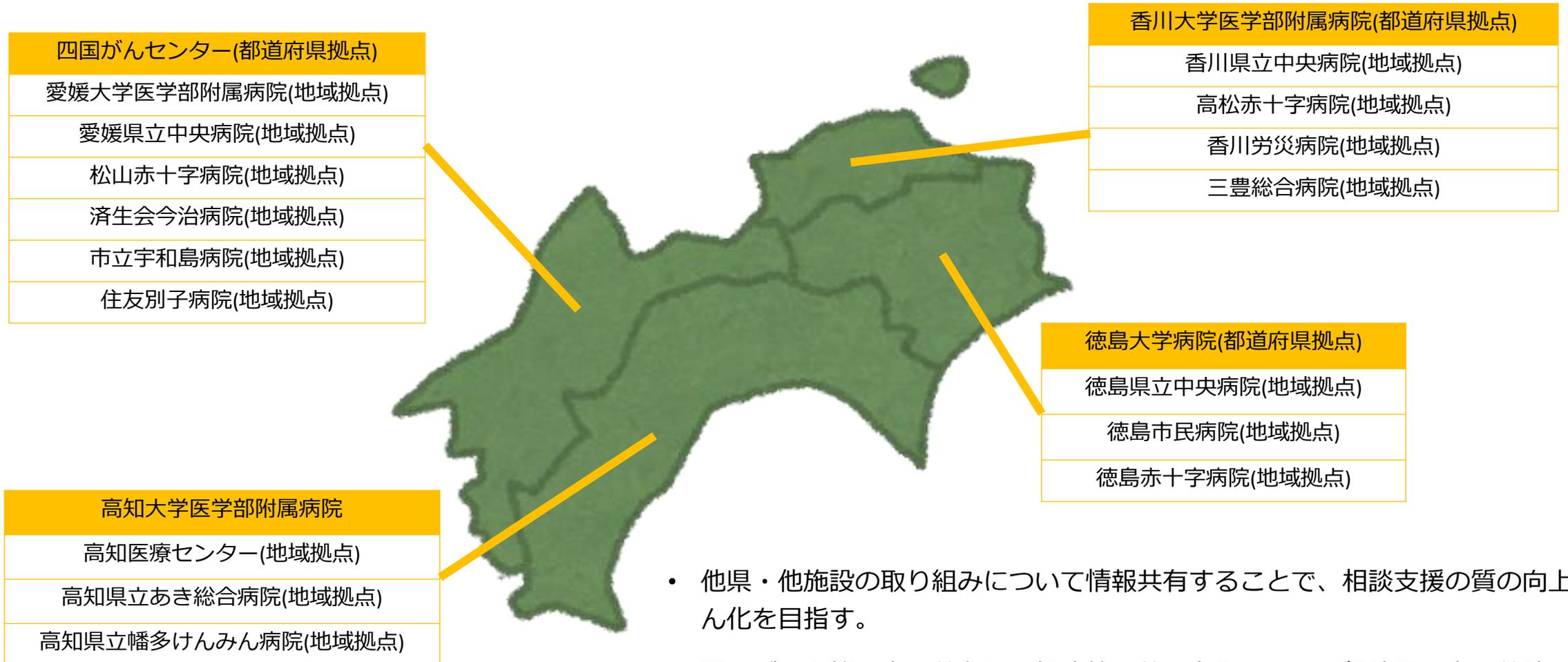
という思いがあり、目の前に共通課題としてある「コロナ禍の相談支援」をテーマに設定。

- プログラム構成を考えるにあたり、運営のマンパワーや経験不足などの問題でGWを企画するハードルは高かったが、GWを行う方法を模索した。
- 単県開催では経験不足を補うことは困難だが、ブロック単位で連携したことで、他県でWEBによるGWを実施した経験など共有いただいたことが、大きなサポートとなった。
- 『おもてなし』も忘れずに。

PRムービー
(オリジナル)



ブロックを意識して考えたこと②



- 他県・他施設の取り組みについて情報共有することで、相談支援の質の向上と均てん化を目指す。
- 困りごとや悩み事を共有し、解決策を共に考えることで相談員同士の共助を目指す。
- 部会委員の医師や各県の担当者を巻き込む。

ブロックフォーラムとして得られた学び①

【参加者アンケートのコメントより一部抜粋】

- さまざまなご施設の実情についてお話を聞かせていただくことができとても参考になりました。やっぱり相談員間で行うワークって大事だなぁって思います。
- 地域は違いますがどの病院もコロナの影響を受けていて抱える悩みは同じであるということが分かり、また課題に向け一緒に相談できたことがとても心強かったです。
- 県外施設の現状を知ることができた。どの施設もそれぞれに苦悩しながら相談対応をされていることがわかった。大変な状況でも患者家族に真摯に向き合う姿勢が感じられ、今後の励みになると感じた。
- 他県や他病院での取り組みを色々伺うことが出来、とても参考になると感じた。また、悩みも共通であることも感じられ、共により良いものを作れたらと思った。
- 他院または他県のがん相談の取り組みについて活発な意見交換が行えました。また、MSW、看護師、県行政といった多方面からの意見について考える時間となりました。
- 四国外から参加された方もいらっしゃいましたが、コロナ禍になってから苦労していることや悩んでいることはほとんどの施設で変わらないことを知り、少し心が軽くなったように感じます。
- このようなテーマの研修は初めてですが、他機関との意見交換を通して、状況や対応を知ることができ、大変勉強になりました。コロナ禍という過去に例をみない状況の中、皆さんが試行錯誤しながら相談支援に取り組んでいることを知る貴重な機会でした。参考になりました。ありがとうございました。
- グループワークは活発に意見交換ができたが、その後の全体共有の時間をもっととっていただけたら、同じグループ以外のことももっとしることができたのに残念でした。

ブロックフォーラムとして得られた学び②

- 知識や情報、スキルのアップデートだけでなく、県域を越えた相談員間の交流を持てたこともブロックフォーラムを開催した成果と捉えている。
- 今回のグループワークは、課題達成型のワークではなかったが、コロナ禍で提供される相談支援に対して、質の均てん化を行うという点では有効であった。
- Web開催であっても、相談員間の交流が行えるプログラムの需要を感じたが、参加者が求める内容と開催側の時間やマンパワーを考慮したプログラムの検討が必要。
- フォーラムを企画運営するにあたり、単県開催では実現困難と思われたグループワークなどを、ブロック内の連携協働により実施できた。今後、実行委員メンバーが変動してもブロック内での風通しの良い連携協働を継続するための仕組みづくりが必要。



アンケートではたくさんのコメントをいただきました。

「...」

「...」

おわりに...

講師の先生方

NCCの皆様

実行委員及びファシリテーターの皆様

当日オブザーバーとしてご参加いただいた先生方

この場をお借りし、改めて御礼申し上げます。

九州・沖縄ブロック第8回
令和3年度 地域相談支援フォーラム
in 佐賀 開催報告



佐賀大学医学部附属病院
MSW 松本 美樹

《報告内容》

1. 開催概要
2. テーマ・プログラム決定までの流れ
3. ブロックを意識して考えたこと
4. ブロックフォーラムとして得られた学び
5. まとめ

1. 開催概要

日時：令和4年2月12日（土）13：00～17：10

形式：完全オンライン（ZOOM）

対象：九州圏内のがん相談員、患者会、行政担当者

参加人数：一般参加者 81名

オブザーバー 6名

実行委員 10名

行政担当者 4名

患者会 5名

計 106名

講師：佐賀大学医学部附属病院

がんセンター長 荒金 尚子 先生

京都大学医学部附属病院

尾崎 幹子 看護師長

小川 勝也 掛長

実行委員：佐賀県内のがん診療連携拠点病院

行政担当者

（※例年は各県より実行委員を選出いただいている）

令和3年度
第8回 九州・沖縄ブロック

地域相談支援

フォーラム in 佐賀

テーマ 最新の情報はがんゲノム、がん相談の原点は……

令和4年 2月12日 土

WEB開催

13:00～17:00 [12:00～受付開始]

九州・沖縄地区のがん相談支援を行っている医療者を対象に年1回、相談員の質やレベルの向上を目指して行われているフォーラムです。九州・沖縄各県のがん相談支援センター活動報告、基調講演、グループワークを行います。

＊申し込み方法
オンラインでの申し込みとなっています。
以下のURLにアクセスしてお申し込みください。
地域相談支援フォーラム
https://sagohoku.jp/med_pso/rod/training_sdlk/forum/index.html

＊主催
佐賀県がん診療連携協議会 相談支援部会

＊後援
佐賀県・福岡県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県・国立研究開発法人 国立がん研究センター がん対策情報センター

＊主催事務局
佐賀大学医学部附属病院 がん相談支援センター
〒849-8501 佐賀市鶴島五丁目1番1号
TEL.0952-34-3113 FAX.0952-34-2071

プログラム

＊開会式	13:00～13:15
講演1	13:15～13:45
がんゲノム医療について 佐賀大学医学部附属病院 がんセンター長 荒金 尚子 先生	
講演2	13:45～14:25
がんゲノム医療に関する相談対応について 京都大学医学部附属病院 がん相談支援センター 尾崎 幹子 先生 京都大学医学部附属病院 地域医療連携室 小川 勝也 先生	
＊休憩	14:25～14:40
＊各県の取り組み発表	14:40～15:40
＊アイスブレイク	15:40～15:45
＊グループワーク	15:45～16:45
＊閉会式	16:45～17:00

時間	プログラム
12 : 00	受付開始
13 : 00 (15)	≪開会式≫ 開会あいさつ 来賓あいさつ オリエンテーション
13 : 15 (30)	≪講演①≫ がんゲノム医療について
13 : 45 (40)	≪講演②≫ がんゲノム医療に関する相談対応について
14 : 25 (15)	休憩
14 : 40 (60)	≪各県の取り組み発表≫ 各6分×8県
15 : 40 (5)	アイスブレイク
15 : 45 (60)	≪グループワーク≫
16 : 45 (10)	がん医療ネットワークナビゲーターについて
16 : 55 (15)	閉会式 講評 閉会あいさつ

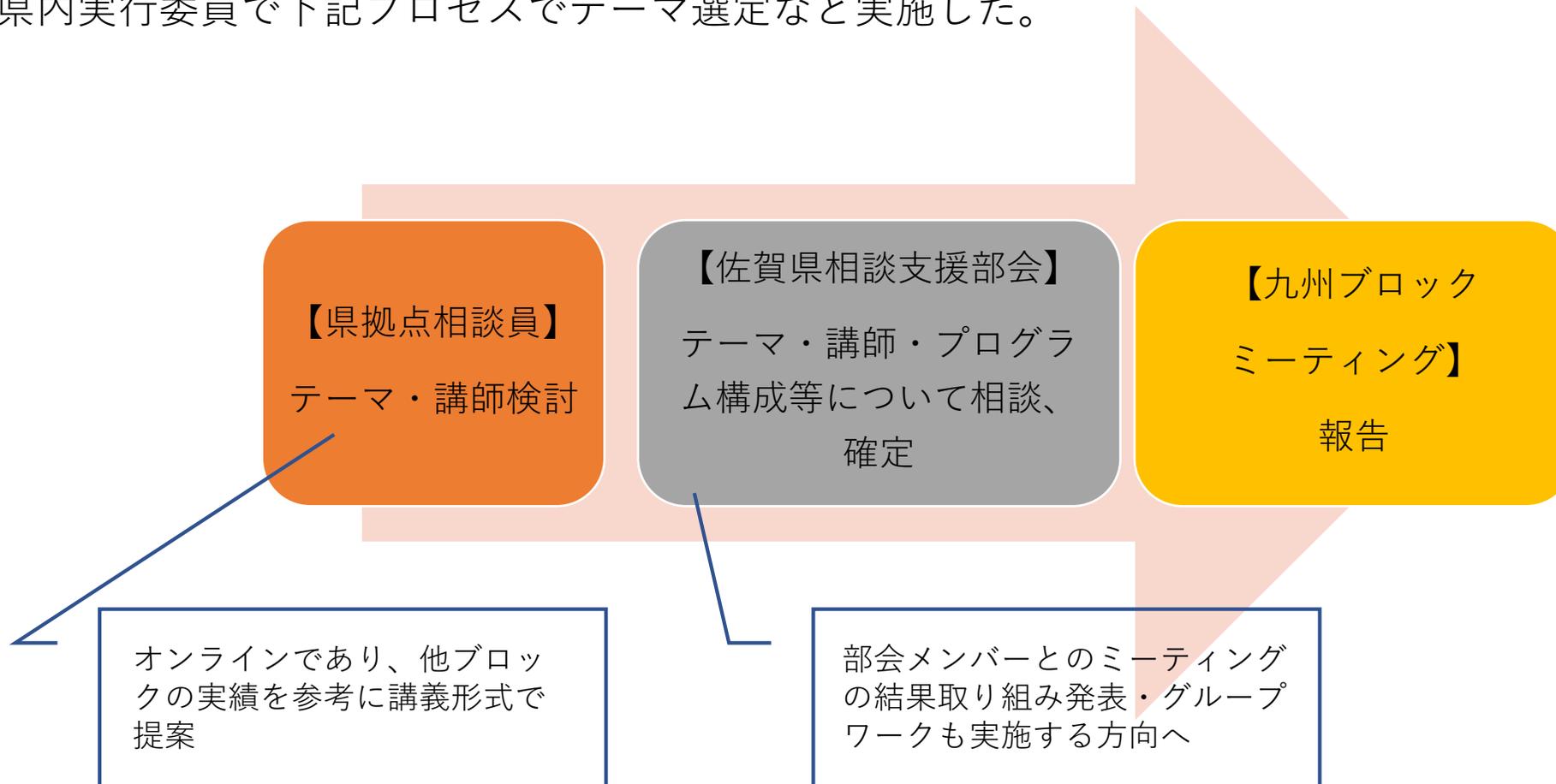
2.テーマ・プログラム決定までの流れ①

テーマやプログラム決定における体制

→例年**主催県の実行委員**で**テーマを検討**、合わせて講師選定やプログラム構成を検討している。

今回：オンライン開催のため、**県外実行委員**は設けず。

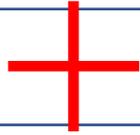
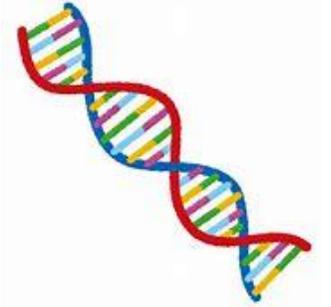
県内実行委員で下記プロセスで**テーマ選定**など実施した。



2.テーマ・プログラム決定までの流れ②

※令和2年度開催計画時点で

- ・2018年の第三期がん対策推進基本計画でがん相談支援センターの役割に“がんゲノム医療に関する相談対応”が追加された
- しかし、みんな対応に不安もあった…
- ・ゲノム医療に関して相談員も正確な情報提供できるようになりたい



- ・知識や情報提供のみに終わらない相談対応がしたい
- ・患者さんの不安や想いに寄り添える対応が必要
- ・相談員同士で日ごろの悩みや対応について共有したい



最新情報も相談員として
知識を得つつ、がん相談の原点を
忘れない対応をこころがけたい！

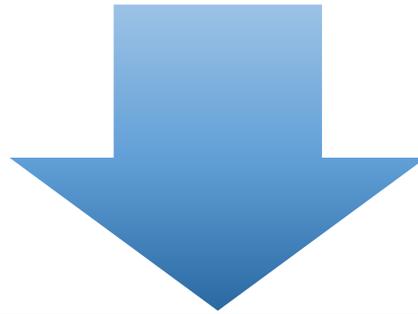


タイトル：最新の情報はがんゲノム、がん相談の原点は…
に決定！

3.ブロックを意識して考えたこと

【盛り込みたい要素】

- 県境を越えた情報交換や、相談員同士での交流を重視した内容構成にしたい
- 相談対応の質向上や対応力強化に向けて、他県の取り組みや状況など共有したい
- 行政、患者会など九州ブロックでのフォーラムを通じたつながりも大切にしていきたい



【プログラム内容】

- 講義の発信のみでなく、相談員同士の交流が図れるグループワークを盛り込む
- 他県の取り組み状況を把握するために、各県からの取り組み発表を依頼する

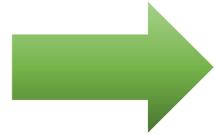
【達成したい狙い】

- 相談員の知識獲得とともに、相談員同士のセルフケアの機会も提供できる

4.ブロックフォーラムとして得られた学び

アンケートより…

- ・がんゲノムについて、最新情報を含め改めて知識の確認ができた。
- ・他県の取り組みなどを共有でき有意義がった。
- ・自県の相談員だけでなく、他県の相談員との交流が得られた。
- ・患者会から直接意見を聞くことができたことが貴重であった。



目標にはおおむね到達できた

それ以外に得られたこと

九州ブロック初のオンライン開催

- ・オンラインならではの長所、短所どちらも経験ができた
- ・今後フォーラムを開催するにあたり、開催形態の選択肢が広がった
- ・参加のハードルを下げることができ、次回参加のきっかけにもなった

5.まとめ

- テーマ選定など、ブロック全体で検討する必要がある
- ブロックフォーラムの良さを引き出すために
グループワークや取り組み発表を組み込んでよかった
- オンライン開催で、短時間であっても県境を越えた相談員同士の
定期的な交流は必要
- 患者会、行政など今後もフォーラムを通じてできたつながりを大切に
していきたい

その他...



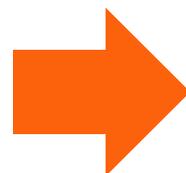
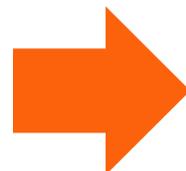
WEB開催での工夫

ネット環境の整備
ZOOMの操作

タイムスケジュールの管理

グループワーク
(記録の取り方、共有方法など)

アンケート



ルーターの設置
システム担当者へ依頼

取り組み発表を事前収録にするなど
時間超過を考慮した構成にする

記録はPCからの参加者に依頼する
記録方法はPowerPointに指定
発表グループを指定し、画面共有で全体共有

Googleフォームを使用

当日の様子



会場に集まった
実行委員



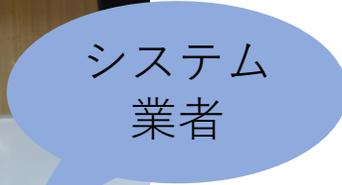
打合せの
様子



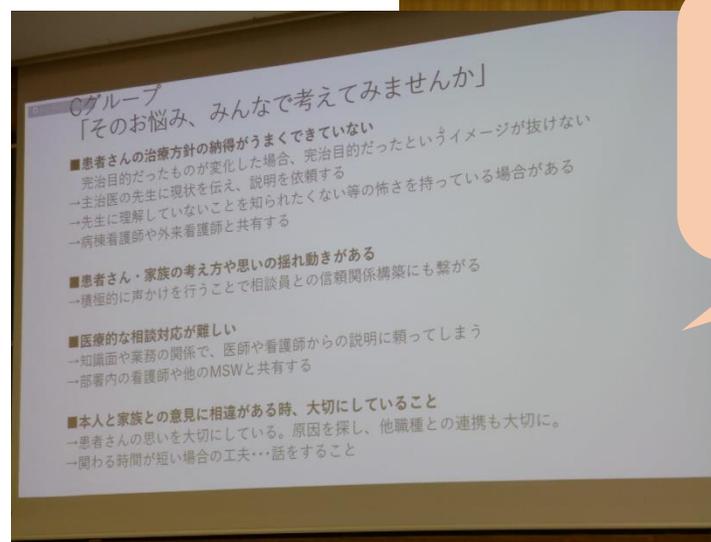
《グループワーク》
記録はPowerPoint
画面共有で全体に共有
しました



司会



システム
業者



①グループ 「その悩み、みんなで考えてみませんか」

- 患者さんの治療方針の納得がうまくできていない
→完治目的だったものが変化した場合、完治目的だったというイメージが抜けない
→主治医の先生に現状を伝え、説明を依頼する
→先生に理解していないことを知られたくない等の怖さを持っている場合がある
→病棟看護師や外来看護師と共有する
- 患者さん・家族の考え方や思いの揺れ動きがある
→積極的に声かけを行うことで相談員との信頼関係構築にも繋がる
- 医療的な相談対応が難しい
→知識面や業務の関係で、医師や看護師からの説明に頼ってしまう
→部署内の看護師や他のMSWと共有する
- 本人と家族との意見に相違がある時、大切にしていること
→患者さんの思いを大切にしている。原因を探し、他職種との連携も大切に。
→関わる時間が短い場合の工夫…話をする

自由記載欄から抜粋

- オンラインは移動の手間がなく参加しやすかった
- 各県の取り組みが共有できて参考になった
- コロナ禍の相談支援など、相談員同士で共有できよかった
- オンラインでもグループワークなども盛り込まれ充実していた
- グループワークの時間が少なく、消化不良だった
- 記録の方法など事前に手順書があったほうがよかった
- 開催日に関して連休の中日のため、部署内で参加者決定に難渋した

など

ご清聴ありがとうございました



地域相談支援フォーラムへの協力可能事項

1. 挨拶または講評
2. 募集要項のがん情報サービスへの掲載
3. （必要に応じて）申込フォームの提供
4. 情報提供・相談支援部会終了後の会議室の提供
5. 部会委員などへの連絡の仲介

詳しくはこちらのページをご参照ください。

医療関係者向けページHOME> セミナー・フォーラム> 地域相談支援フォーラム
> 地域相談支援フォーラムへの国立がん研究センターの協力依頼について

https://ganjoho.jp/med_pro/vod/training_tdfk/forum/forum.html